

# 【 九 重 町 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：国語

教科の正答率で見ると、国語は全国と比較して+1.4ポイントであった。

学習指導要領の領域等の正答率では、「我が国の言語文化に関する事項」-6.2ポイント、「読むこと」-0.2ポイントが全国平均を下回り、「言語の特徴や使い方に関する事項」+6.2ポイント、「話すこと・聞くこと」+4.3ポイント、「書くこと」+4.2ポイントと、3領域で全国平均を上回った。

問題形式別平均正答率では、「選択式」-0.6ポイント、「短答式」+3.7ポイント、「記述式」+5.9ポイントであった。

正答数度数分布では10問（14問中）正解の割合が多い。

正答数度数分布で、0問～3問のみ正解の児童が3.8%いる。

無回答率は3.2%で、全国（5.9%）と比較して+2.7ポイントであった。

全国と比較して、特に「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」の領域に課題がある。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：国語

次のような視点を持って指導を行なっていく。

登場人物の行動や気持ちについて、物語全体を通して複数の叙述を基に捉えることができるようにする。

物語中の着目した叙述を複数取り上げ、そこから考えられることをノートやワークシートにまとめたり、考えたことを交流したりすることで物語の全体を明確にすることができるようにする。

○表現の効果を考えることができるようにするために、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目して読ませるようにする。

# 【 九 重 町 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：算数

教科の正答率で見ると、算数は全国と比較して+1.8ポイントであった。

学習指導要領の領域等の正答率では、「数と計算」-1.2ポイントが全国平均を下回り、「図形」+6.3ポイント、「変化と関係」+2.5ポイント、「データの活用」+1.7ポイントと、3領域で全国平均を上回った。

問題形式別平均正答率では、「選択式」+2.9ポイント、「短答式」+2.4ポイント、「記述式」+0.6ポイントであった。

正答数度数分布では10問・12問・13問（16問中）正解の割合が一番多く、4問以下の割合が1.9%であった。

無回答率は2.1%であり、全国（3.5%）と比較して+2.4%であった。

全国と比較して「数と計算」の領域に課題がある。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：算数

次のような視点を持って指導を行っていく。

最小公倍数や最大公約数の意味について確実に理解し、それらを求めることができるようにする。

○日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きく見たり小さく見たりして、概算できるようにする。

日常の具体的な場面に対応させながら、数量が変わっても割合は変わらないことを理解できるようにする。

# 【 九 重 町 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：理科）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：理科

教科の正答率で見ると、理科は全国と比較して+5.7ポイントであった。

学習指導要領の領域等の正答率では、「エネルギー」+3.6ポイント、「粒子」+6.4ポイント、「生命」+4.6ポイント、「地球」+1.7ポイントと、すべての領域で全国を上回った。

問題形式別平均正答率では、「選択式」+4.6ポイント、「短答式」+6.1ポイント、「記述式」+8.7ポイントであった。

正答数度数分布では13問（17問中）正解の割合が一番多く、4問以下の割合が0%であった。

無回答率は2.1%であり、全国（3.5%）と比較して+1.4%であった。

全国と比較しても上記の結果からは課題は特に見当たらないが、小問別にみた場合には「結果からの分析」・「日光」等に課題が見られる。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：理科

次のような視点を持って指導を行っていく。

観察・実験などの結果について、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見出すことができるようにする。

○知識をより深く理解できるようにするため、主体的な問題解決を通して知識を習得できるようにすることや、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるようにする。

# 【 九 重 町 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：国語

教科の正答率で見ると、国語は全国と比較して+1.0ポイントであった。

学習指導要領の領域等の正答率では、「我が国の言語文化に関する事項」-5.1ポイント、「読むこと」-0.2ポイントであり、「言葉の特徴や使い方に関する事項」+2.2ポイント、「情報の使い方に関する事項」+4.2ポイント、「話すこと・聞くこと」+4.3ポイント、「書くこと」+4.3ポイントと、4領域で全国を上回った。

問題形式別平均正答率では、「選択式」-0.9ポイント、「短答式」-0.1ポイント、「記述式」+4.7ポイントであった。

正答度数分布では10問（14問中）正解の割合が多く、4問以下の割合が3.0%であった。

無回答率は3.5%で、全国（4.3%）と比較して+0.8ポイントであった。

全国と比較して、特に「我が国の言語文化に関する事項」、「読むこと」の領域に課題がある。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：国語

次のような視点を持って指導を行っていく。

文学的な文章を読む際に、文章の中の時間的・空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めることができるようにする。

直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を理解して書くことができるようにする。

# 【 九 重 町 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：数学

教科の正答率で見ると、数学は全国と比較して+0.6ポイントであった。

学習指導要領の領域等の正答率では、「図形」-1.5ポイント、「関数」-4.1ポイント、「データの活用」-4.3ポイントであり、「数と式」+7.8ポイントと、1領域で全国を上回った。

問題形式別平均正答率では、「選択式」-2.2ポイント、「短答式」+3.5ポイント、「記述式」+0.1ポイントであった。

正答度数分布では10問（14問中）正解の割合が一番多く、3問以下の割合は16.9%であった。

無回答率は8.8%であり、全国（10.8）と比較して+2.0ポイントであった。

全国と比較して、特に「図形」「関数」「データの活用」の領域に課題がある。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：数学

次のような視点を持って指導を行っていく。

伴って変わる二つの数量  $x \cdot y$  の変化の様子を表から読み取り、一次関数  $y = ax + b$  の変化の割合を求めることができるようにする。

目的に応じてデータを収集し、その傾向を読み取って批判的に考察し判断することを通して、統計的に問題解決することができるようにする。

図形の性質を考察する場面において、筋道を立てて考えること、事象に即して解釈したことを数学的に表現すること、事象が成り立つ理由を数学的に説明することができるようにする。

# 【 九 重 町 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：理科）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：理科

教科の正答率で見ると、理科は全国と比較して+3.7ポイントであった。

学習指導要領の領域等の正答率では、「エネルギー」-0.5ポイントであり、「粒子」+6.9ポイント、「生命」+5.2ポイント、「地球」+3.9ポイントと、3つの領域で全国を上回った。

問題形式別平均正答率では、「選択式」+1.4ポイント、「短答式」+14.3ポイント、「記述式」+6.2ポイントであった。

正答数度数分布では9問(21問中)正解の割合が一番多く、3問以下の割合が0%であった。無回答率は2.4%であり、全国(3.4%)と比較して+1.0%であった。

全国と比較して、特に「エネルギー」の領域に課題がある。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：理科

次のような視点を持って指導を行っていく。

日常生活における帯電や放電の現象を、静電気に関する知識と関連付けて説明することができるようにする。

○課題に正対した考察を行なうために適切なグラフを作成できるようにする。

○過去の大地の変動を考える上で、水平方向と垂直方向の移動を関連付け、主として時間的・空間的な視点で捉えて推論することができるようにする。

# 【 九 重 町 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問紙

○小学校の主な項目において、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上高い数値を示している。

- ・自分には良いところがあると思いますか
- ・将来の夢や目標を持っていますか
- ・毎日同じくらいの時刻に寝ていますか
- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか
- ・5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICTをどの程度使用しましたか
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか
- ・道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか
- ・国語の勉強が好きですか
- ・算数の授業の内容はよくわかりますか
- ・算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか
- ・理科の勉強は好きですか
- ・5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか
- ・5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか

○小学校の主な項目において、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上低い数値を示している。

- ・算数の勉強は大切だと思いますか。

#### 生徒質問紙

○中学校の主な項目において、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上高い数値を示している。

- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

- ・数学の授業は好きでした
- ・数学の授業の内容はよくわかりますか
- ・理科の勉強は好きですか
- ・理科の授業の内容はよくわかりますか
- ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

○中学校の主な項目において、次の項目で全国平均よりも5ポイント以上低い数値を示している。

- ・自分には良いところがあると思いますか
- ・将来の夢や目標を持っていますか
- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
- ・1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか
- ・国語の勉強は好きですか
- ・国語の授業の内容はよくわかりますか
- ・1, 2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか

## 2 九重町の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

### < 成果 >

規範意識が高い。

「総合的な学習の時間」を始めとした課題解決学習が進められている。

授業の中でグループやペアでの話し合い活動が仕組まれている。

小学校ではコンピュータ等のICT機器を使用しての学習が行えている。

### < 課題 >

中学校ではコンピュータ等のICT機器を使用しての学習が行えていない。

小中ともに家庭学習の在り方について再考する必要がある。

以上のことから、新大分スタンダード、小中7年間を見通した総合的な学習の時間を活用した「このえ学」、ペア・グループ活動を取り入れた授業（協調学習も含む）の取組が、学校全体で組織的に推進されていると推察できる。しかし、学校ごとに見ていくと取組に大きな差があることも明らかになった。

以上のことをふまえ、今後は授業やペア・グループ活動における課題の設定についての研究、地域教材の掘り起こしと地域人材の有効的な活用、家庭学習になどについて小中が連携した取組をよりいっそう推進していくことが必要である。

# 【 九 重 町 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 小中学校：学校質問紙

##### ○肯定的な回答

- ・児童生徒に学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えている。
- ・児童生徒に対して、学校生活の中で一人ひとりの良い点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行なっている。
- ・教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行なっている。
- ・ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）に取り組んでいる。
- ・授業研究や事例研究等、実践的な研修を行なっている。
- ・特別の教科道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題としてとらえ、考え、話し合うような指導の工夫をしている。
- ・児童生徒一人ひとりに配備されたICT機器を授業で活用している。

##### ○一部課題が見られる回答

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童生徒が相談したいときに相談できる体制となっているか。
- ・ICTを活用した校務の効率化を通じて、家庭への調査等に関する事務が軽減したか。
- ・ICT機器の使用に関して、学校に十分な知識を持った専門スタッフがいるなど技術的にサポートできる体制があるか。

### 2 九重町の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 1 教育条件整備
- 2 教育相談体制の充実
- 3 組織的な学力向上の推進と授業改善
- 4 ここのえ学園基本計画に基づいた小中連携・地域保護者との連携の推進
- 5 ICT機器の更なる活用とサポート体制の強化